

国の基金を活用した都立高校改革の取組について

- AI等の技術革新、深刻化する気候危機、人口減少に伴う労働力不足など、都政を取り巻く状況は急速に変化
- 東京の成長力を一層高めていくためには、先手先手で未来への投資を積極的に行っていく必要

都政が抱える課題に対応できる人材を都立高校から輩出

<都政が抱える主な課題>

都市の強靱化

気候変動の影響によって頻発化・激甚化する風水害や、社会の変化に伴い新たな課題も重みを増す首都直下地震などの災害は、いつ起きてもおかしくはなく、これらが複合的に発生するリスク

エネルギー問題

世界が「低炭素」から「脱炭素」へとシフトする中、東京も大都市の責務と持続可能な成長のため、社会全体を「脱炭素化」へと大胆かつ速やかに転換していくことが不可欠

就労支援

就労に困難を抱える者の中には、様々な事情により能力開発やスキルアップの機会に恵まれず、そのことが就労の困難さにつながっているケースが少なくない

高校改革に係る国の動き

- 国において、いわゆる高校無償化と併せて公立高校等への支援の拡充を図るため、「高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)」に沿った緊急性のある取組等について、各都道府県に最大約60億円を交付^(3年間で最大約60億円)
- 都道府県は、国からの基金を活用し、国が示す「改革先導校の類型」に応じた高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、取組・成果を域内の高校に普及

国が示す改革先導校の類型

類型Ⅰ アドバンスト エッセンシャルワーカー

- 技術革新のスピードが加速する時代に適した課題解決能力の獲得に向け、探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりのある学びを実現する。

類型Ⅱ 理数系人材

- 先進的な新たな知を生み出す力を育成するため、理数的素養を身に付けつつ、自ら問いを立て、解決する研究を行う高等教育を見据えた文理融合の学びを実現する。

類型Ⅲ 多様な学習ニーズ に対応した教育機会の確保

- 人口減少地域に、魅力ある学びの選択肢を増やすため、地域の教育資源を活かした学びや遠隔授業を活用した学びの提供を実現する。

都における取組

インフラを支える エッセンシャルワーカーの育成

- ・工科高校における学びを、近年、高度化している現場のニーズに対応できるようにしていくことが重要
- ・教育と産業を接続する新たな人材育成の枠組みが必要
- 工科高校でインフラづくり等の現場の技術者等を目指す教育
 - ✓ 最新の實習設備と機材の導入
 - ✓ AI等の利用環境の向上

理数の知識に基づく再生可能エネルギー や水素等利用促進の人材の育成

- ・理数系の専門性を土台にしつつ、社会・制度・人をつなげ、実装まで見据えて課題解決に貢献できる人材の裾野を拡大していくことが不可欠
- 進学校で高度の理数とエネルギーシステム等に係る知識をもとに探究的な学びを充実
 - ✓ エネルギー實習ラボの導入
 - ✓ 最新の演習用機材等の整備

多様な背景を持つ生徒への就労支援を通じて、 地域社会を支える人材の育成

- ・地域や社会の人的・物的資源も積極的に活用しながら、一人ひとりの状況に応じて、社会全体で成長を支援していくことが重要
- すべての生徒の可能性を引き出し、地域社会を支える人材の育成を目指す教育
 - ✓ 「登校」「校内別室」「オンライン」を柔軟に組み合わせたハイブリッド型学習
 - ✓ 地元中小企業者やソーシャルファーム等との連携促進

※ 国において、令和8年6月下旬に採択結果を発表予定